

【斑鳩町助役】

質問というよりも意見を言わせていただきたい。

今県が作られた、市町村合併推進構想については市町村における地方分権の進展、国、地方の厳しい財政状況の中で様々な行政課題の解決に有効な手段の一つであるということは十分認識している。本町はご存じのように王寺周辺7町で合併協議会を立ち上げ合併の議論を進めた経緯がある。そうした経緯の中で本町は平成16年12月5日に合併についての意思を問う住民投票を実施した。今審議会会長の方から、合併についての住民に対する説明不足ということをおっしゃられたが、住民説明会を開き、住民の理解を得て実施した。その結果投票数のうち約80%近い住民11,122人の方が合併反対の意思を示された。こういった住民の意志を真摯に受け止め、7町の合併協議会を離脱するとともに単独町政でいく決断をした。こうした住民投票の実施から1年6ヶ月しか経っていないから、合併についての検討、協議に入ることは我々としては住民を無視した行為ではなかろうかと考えている。

本町もご存じのように単独行政、町政の道を歩みはじめ、町財政の方向についても住民の視点から今後の財政運営の方向性や行政と住民の果たすべき役割等について提言をしていただき斑鳩町財政健全化住民会議で、10回の会議を開いていただき最終報告の提言をしていただいたところである。その中でこの提言を参考にして、今後の財政についての方向性を示す段階に現在入っている。さらに議会においては議員定数を16から15に改正。議員報酬も約7%削減されるなど、議会、住民等それぞれの立場で単独行政への努力を行っていただいているのが現状であり、したがってこうした状況において合併の検討、協議に入ることは非常に難しい。結果、本町は合併を進めていくことは考えられない状況である。このように斑鳩町の考え方について申し上げる。

【河合町長】

ただいま斑鳩町の助役さんからご意見があったように、私も河合町として、そして合併審議会委員として一言その辺をお話させていただきたい。私も審議会の委員としては、当然我々7町で合併協議会をやった。しかし、最終的に斑鳩町さんと王寺町さんと住民投票をされて結果が出たという段階においてこの7町内の合併というのは非常に難しいのではないかと、そしてすぐにそんな簡単にいくものではないんじゃないかということでお話をさせていただいた。

しかし、現在の状況までに至らないが、最近の国の状況等々行政の問題がいろいろ出ているように果たして単独の町村でやっていけるのかどうか、ここのところ、私は個人的には合併出来るところは合併して行政体のスリム化を図っていくことが当然必要になってくるんだろうと認識をしている。強硬にこういう構想が出たから進めなきゃならんというのではなく、私の理解しているのは、強硬に進めるのではなくて、ひとつの構想の中で一度取り組んでみて、もう一度原点に帰って話し合いをしていくということのスタートではなかろうかと考えている。今国で市町村数を300にしるとかそんな無茶苦茶な話も出て来ている。そんな状況の中で、我々は何も国が言ったから県が言ったからするのではなくて必要なものは必要でなかろうかという話し合いの場を作っていくということを進めていければいいのではないかと私は考えている。

【山添村長】

合併について、いろいろご説明があった。私も必要だと思っている。

しかし、県の指導が一番誤っておったのは初期の指導がまずかったように思う。初期に広域行

政を中心とした合併構想が出された。私どもは磯城3町、あるいは天理市、都祁、月ヶ瀬、山添と、一緒になった12万都市の構想だったと思う。私は賛成だった。

しかし、その後、月ヶ瀬、都祁が奈良市ということになり、その時の指導がまずかったと思う。そして結果として山添村が飛び地に残されてしまい、今はいろいろ理由はあるが、奈良へ行ったらいいじゃないかという構想である。大変そのときの指導がまずかったということを残念に思う。そして結果として私どもは奈良市に行かなくてはいけなくなった。大変その時の指導に疑問を抱いている。今、勧告とかいろんな情報が入ってきているが、そんな時にしっかりと指導をしていただいていたら山添村にも今のような状況が起こらなかったと思う。

それと30数年来、広域でいろいろお付き合いしたこの組織、この枠組みをずたずたにしたような合併構想になっている。一番初めの、奈良市へ月ヶ瀬、都祁がいく。これも合併であるがそういった時の指導をしっかりとさせていただきたいと思う。そして今、合併の問題であるが、それぞれの村にはそれぞれの事情がある。合併できなかったところもあるし、しなかったところもある。そういったところ一緒にして指導、勧告というのは大変不満に思う。

今斑鳩町さんも言われた。斑鳩町さんも住民投票している。県の指導においては住民投票は説明不足だからあまり良くないような表現であったけれども、そうじゃない。説明不足だけじゃない。精一杯の説明をして住民投票をした。その結果である。そして議会も否決をしている。そういった中でいろいろな血の滲むような行財政改革をしながら、一つの村を作り上げていこうとしている最中で、そんな時にもうすぐに1年もたたないうちに新たな構想を発表されて上から被せられてしまった。本当に村も混乱している。今後においてもしっかりと構想、勧告をしていただくのは結構である。しかし、やはり機会を誤らないような勧告にして欲しい。大変混乱を催すような格好になっているのでその点を十分ご配慮願いたいと思う。あまりにも拙速な、頭ごなしの合併構想の発表だと思っているのでよろしく願います。

【県川端次長】

県としての考え方を説明してご理解を得たい。

まず斑鳩町さんからは特に県に対するご意見ということではなくて斑鳩町さんのお立場、考え方等についてご意見を発表されたと理解をしている。たしかに西和地区7町における合併協議においては7町それぞれの立場がおりだと思ふ。その中で最終的に合併協議会解散というふうになったが、今回県の方として新たな構想を発表させていただいたことについては、冒頭市町村課長から説明あったが、今後の奈良県の市町村のあり方がどうあるべきかということを考えてときに市町村合併というのは有効な手段であるということ、さらに引き続き推進が必要であるという認識のもとに新しい合併特例法のもとで推進構想を定めるというふうにして、県としてはその観点から新たな構想を定めた。これは河合町長さんからもご意見いただき、まさにおっしゃっていただいた通りである。この構想をもとにして再度議論をする必要があるのではないかと、あるいは合併しない場合には自分たちのまち、村がどうなっていくのかを議会なり住民の皆さんとそれぞれの地域でもう一度十分にご議論願いたい。県の構想はそのための土台にさせていただきたいという意味合いである。今後それぞれの地域で積極的なご論議が起こって、この県の構想とは違う組み合わせ等が論議されるということも十分想定している。県としてはそういう合併の必要性等の議論についてもう一度地元でご議論をしていただきたい。県としてはそのために汗をかいていく、積極的に関与していくという考え方を示しているものである。

それと山添の村長さんからは、前回の旧法における合併に対するいろんな経緯、県はもともと広域行政を推進しておいた立場で、例えば山辺広域市町村圏で山添村さんについては苦労されて

いる中で、様々な経緯があるわけだが、都祁村さんが奈良市さんと合併したということに至った。結果として飛び地みたいな形で山添村さんがそれぞれのいろんな分野で血の滲むような努力をされて、さらに村民の皆さんが県の構想について混乱をされているというお話をいただいた。この構想を唐突に出したという受け止められ方をしておられるかもしれないが、県の考え方としては決してそうではない。様々な今までの経緯、あるいは地域的な状況を踏まえて審議会で十分ご議論いただき、県としての構想のあり方の中で、一つという形で発表させていただいた。今意見をいただいた件については十分に頭の中に入れて今後の合併の推進に向けて、県としても頑張っていきたいと思っている。

【土谷会長】

ちょっと時間があるようなので。審議会の中で、斑鳩町さん、王寺町さんの住民投票、他の地域についても住民投票でノーとなった事例は多いわけで、その点についてはかなり審議が長引いた。合併問題を長年経過を見ていて、初期の方ではまず合併ありきの議論はけしからんという話が合併協議会からも聞かせてもらったこともあるが、ちょっと皆さんから意見が出ているように、国の施策が強引だとか、あるいは財政に対するしめつけとか、地方財政をどう考えてるかとか、大きな議論が私もかなり部分部分で批判がある。

でも我々の地域がどう生きていくか、ということは、政策批判をやってるだけでは解決しないので、首長さんはじめ議会、住民の方々は自分のところの町は血の滲む努力をしているというのは他の区域でもこの話は出た。本当に単独でいくと血の滲む苦勞をしないと成り立たない状態で、しかもその行く先は見えない。毎日毎日地方財政に関わる記事が出ない日はなく、情報も沢山あって、方々で議論されている状態である。この状態でまず合併ありきというのは5年前と同じようにそれはけしからんのかなと思っている。合併しなければ生きていけないのではないかなと思っている。その辺のところをよく考えないといけないんじゃないかなと思っている。その議論に賛成でない市町村のトップの方々は、それはそれで一つの見識だからいいが、現在も血の滲む努力をしても将来どうか分からない。

だからやっぱり合併は必要だと会議で言われるだけでなく、本当にそう思われるのであれば、この審議会でも沢山意見が出ておったが、住民投票は、やっぱり情報不足という綺麗な言葉では言えない、つまり首脳陣が本当に合併せねばならない、ということで住民投票される場合には説得型の投票、情報になると思う。例えば市の名前がなくなりますよとか水道料金が上がりますよとか、部分部分の情報をつなぎあわせた住民投票ではちょっと無理がある。本当に合併せねばならないと、もし思われるなら、情報が不足したというのは綺麗事で、首脳陣の説得型の住民投票が必要である。私もいろんな合併協議会に委員として参加させていただいたし、その時にはやっぱり住民投票も行われ、賛成、反対とかいろいろあるが、それはやっぱり斑鳩町さんが、いろんなところを回って説得して歩いたとおっしゃったが、そういうふうにして自分らが望むような結果を得られるような住民投票が出来たのかと。これは住民の人には大変失礼だが、どっちにしましようかというような住民投票なら、皆さんと住民の情報量と言うと綺麗事ですが、目の付け所が全然違うわけで、財政で血の滲むような努力をしている、あるいは別に財政が貧乏やから合併せねばならない、とだけは言えないのだから、夢を与えないといけないのだから、そういう絵を描いて、住民に提示して財政がこうなんだということで情報提供して説得して投票してもらおう、というその辺を審議会でも情報不足という一つの言葉でまとめてしまった。委員はみんなそういう思いがあった。

ある合併協議会でも委員の議員さんから「仕方がない、住民の意思が民主主義や。やめておこ

う」という発言があった。非常に私としては町のかじとりとしては、今頃民主主義という言葉聞いたのは久しぶりだが、それでいいのかと思ったことがある。実際両町の議員に関わっていないので、失礼なことは言えないが、おそらくこれから協議会を作ってもらおうということになると思う。過去のことでなくて、投票ということになればそういう投票をしていただきたい。本当にリーダーが合併が必要だと思ってるのなら説得型の投票、どっちでもいいというならこっちにしましょうかと。結果は反対という結果が出るというのは今から読めている。レベルが違うから。学校遠くなる、水道料上がると言っただけで反対。私が自分のまちでそう言われたらやっぱり反対すると思う。したがって、よっぽど複雑な論議を経たあとで住民投票だけはお願いしたいと、審議会ではそんな話があった。

【山添村長】

あまり住民投票にこだわるわけではないが、首長が自分の方向に向けて住民投票したような話で、あんまり現場のことを理解されておられないような意見だと思う。本当に住民がどうあるべきかという住民投票を私の村はしたと思っている。しかしそれを首長が自分の良い方に向かって情報を流して、そこへ誘導したような言い方をなさっているが、大変私としては疑問に思う。しっかりと説明をしながら、堂々とこっちの陣営も住民投票の運動をした。そしてその結果を重視した村の運営をしている。その辺もご理解よろしく願います。

【土谷会長】

大変失礼だが、首長さんが反対の方に誘導したとは決して言っていない。もしそうするならばオーケーの方向に誘導してもらいたいというふうに申し上げている。もしそう聞こえたら謝る。反対に導くためらしき投票をさせたとは言っていない。

【県総務部長】

先週の木曜日から木、金、それから今日。南部、それから中和、そして今日。新聞の見出しだけを見ていると、県に批判が相次いだとか書いてあるので似たようなものだと思いになるかも知れないが、当然ながらそれぞれの状況が地域によって違うし、旧法下での合併の協議の経緯も違うので、当然奈良は、吉野郡から出てくるご意見、中和でのご意見、今日は3人の方からのお話だったが、状況が違う。

そこで各論については今日は全体的な場だから各市町村のことをどうこう申し上げる場ではないと思うので、皆さん方のお気持ちとして今日は聞いて帰る。今日のお話を聞いて思ったが、山添村長さんの所はちょっとご状況が違うが、特に西和の場合は地域で中心的、拠点的な位置づけになるであろう町で住民投票があって、前に進めなかったということだろうと思う。短期的に見るとしたくないとおっしゃる住民の方もそれなりの理由がありなんだろうと思うが、特に奈良県の場合、北和、西和が発展してきた中でいろんな経過があるわけで、一つの要素というのは大阪のベッドタウンとして住宅開発も進んで、人口も増えて、俗な言い方をすれば、大阪の経済界なり大阪の企業に、それなりに会社を経営されとか、あるいは比較的恵まれた給与水準の会社にお勤めになる。こういう方々がお家を買ってくださり、地方の財政からしても住民税で固定資産税も比較的よそよりはよく入る。そういう市、町がいくつかある。今まではそれでうまくいっているし、市町村なり住宅団地の状況にもよるが、まだまだ40代、50代の始めの方が大勢おられるところはまだ先が数年ある。

しかし、40年代中ごろから50年代半ばぐらいまでは、このころに30代から40代くらい

で住宅をお求めになっている層というのが、いわゆる団塊の世代と言われている。この方々が会社経営からひかれる、あるいは企業から退職される。そうすると、今までだと電車なり車でどこか通勤をされていて、ベッドタウンにお住まいになっていて、高い税金を納めていただいていた。しかし、市町村の行政にはそれほど細かい、うるさい注文は付けて来られなかった。こういう層がだんだん地域に帰ってこられる。それによって、財政上の問題もある。それから今までは財政の担い手だった人たちがこれからは福祉サービスの対象、サービスを受ける側に回っていく。大きく言うところこういう流れになっているということが一つ。このことはそれぞれの町の行政をやっている皆さんは状況をよくご存じだと思うが、特に奈良の場合はこの変化が、神奈川県や千葉県の一部でも起こっているだろうと思うが、全国の中でも非常に激しい勢いで変化がここ5年、10年でやってくる可能性が極めて高い。

それだけでなく、先を見通した時に我々地域というのは拡がりのある中で生きているから、通勤で昼間なら大体8時間とか10時間とか12時間とかモーレツ社員さんだと日が出てから日が沈んでも家に帰ってこないという生活パターンであったんであろうが、ある程度地域の中で姿の見えない住民の方々であったかもしれない。

しかし、地域というのは繋がっているんで、今まではそうやって電車で行って帰ってくるという形で町の中での中核的な住宅街というのが成り立っていた。しかし、この方々が地域にも帰って来るし、いろいろな形で教育の問題、治安の問題、福祉の問題、あるいはまちの賑わいとか観光振興の問題、環境保全の問題、どれを取っても特に北和、中和というのは、奈良市は除きますが。一定以下の面積の中である特定のところが、面というよりは点的に狭いエリアの中でそこは財政も非常にうまくいっている、教育もうまくいっているというのはなかなか難しいのではないかと。周辺の市町村の教育、特に義務教育の段階で、もしもいろんな制約で問題があれば、中学校区の中では問題でなくても仮に私学に行っても、県立高校ならなおさらだが、高等学校に行ったときに、当然そこで高校の一つの通学圏の中で周辺の町村とひとつになる。道路というのは今頑張ってる県も直轄の道路、国道、県道も頑張ってる整備しているが、しかし本当に住民のみなさんに便利に使っていただくためにはわが町の中はいいんだけど大阪へ出よう、奈良へ出ようと思って途中の町村の道路が悪くて渋滞するところもいっぱいある。

高齢者福祉についても、一定の範囲で医療保険にしても福祉にしてもそうだが、ある面的な中でベッド数なり入居者数は勘定しているから。そういうときにわが町はやってるけど、周辺町村の福祉サービスはうまくいっていないということでエリア全体でその町の方も含めていい福祉サービスが提供出来ないんだろうか。治安の問題もそうである。ここから半径数キロは治安がいいんだが、周りが悪いというのは、奈良県警が頑張っているから、ないと思うが、しかしなかなか頑張らないといけないところが出てくるのではないかと思う。地域の賑わい、活力もただ車に乗ってたって電車で来たって外部の方からすればこの辺一帯が賑わいがある景観が美しい所だと思っていただけるかどうかであろうと思う。すべての面的に広がっていく話だと思う。そういう中で相対的に今財政状況がいいところもあるとか、まちが比較的景気が高いところ、そこまでは以前と比べるとちょっとどうかということがあるかも知れないが、これは一定の面的な広がりの中から考えてもらわないといけない。アメリカの住宅地だといいい住宅地になると住宅地ごと塀で囲ってガードマン雇ってというところがあるそう。映画に良く出てきたりするが。そういうまちづくりに進む選択をされるということはあまりないと思う。

今の奈良のおかれている状況を考えると一定のまとまりの中で面的な広がりの中で福祉にしても、医療にしても、教育にしても、産業にしても、まちの活気にしても、みんなで力を併せて連携してやっていく。そのための単位はどのへんがいいのかと、どれぐらいの広がりがベストかと

いうことを今の時点でよく考えていただかないと、これから私ども未来も十分あると思っているが、場合によっては今よりも客観的に、子供が減ってる、お年寄りが増えてる、財政的にはちょっとしんどくなってる、福祉の社会保障関係の経費は何割増にもなっている、ということが来る前に今のうちに準備しておくことが一杯あると思う。その時の基礎的な体制とか基盤になる単位というのは何だろうか。やっぱりそういうことが事の本質にあると思っているので、今日はそれぞれの個別の切実な心情を言ったのに何でこいつは今更一般論を言いやるとおっしゃるかもしれないが、私は特に西和地域を考えたときにそういうことをちょっと先に視点を置いておかないと、今であれば非常に可能性が高い地域が素晴らしい議論をするチャンスを逃してしまっただけではないかと、あるいはその時になってからでは遅いのではないかと。そういう気持ちを強く持っている。

そういう観点で特に私ども、このエリアについては考えていることがある。個別な話は今日しないので、それぞれの市町村の事情についてはまたそれぞれの地域を回らせていただいてその中で個別にお話をさせていただきたいと思っている。今日はその出発点になる会議と思っているので、引き続きいろんな形でご議論、ご協力あるいはご批判をいただきたい。